

この冊子について

KANSAI-SDGs 市民アジェンダは、2030年にどんな関西、日本、世界になってほしいかを一人ひとりの市民がそれぞれの視点で考え、声に出すという取り組みです。この冊子は、その取り組みをまとめたものです。

いろいろな考えが集まると違う意見や考えもたくさん出てきます。その違いを豊かさにとらえ、たくさんの方が2030年の自分と世界の姿を考える機会にしてほしいと思っています。

この冊子では活動を通して積み重ねてきたみんなの声も紹介しています。ぜひ、この冊子を手にとったあなたも一緒に、2030年に向けて「私の声」を発し、一歩前にふみだしましょう。

えすでいーじーず SDGs ってなんだろう

SDGs は Sustainable Development Goals のことで、日本語では「持続可能な開発目標」といわれています。2015年9月に国連総会で採択されました。SDGs は「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に書かれている具体的な目標です。

SDGs は 17 の大目標と、大目標に向けた 169 の小目標から構成されています。これらは貧困、格差、紛争、環境破壊によって続かない（＝持続可能でない）方向へと進んでいる今の社会や自然環境を、続く（＝持続可能な）方向へ変えていくための目標です。

わたしたちの未来、子どもたちの未来、世界の未来のために、持続可能な社会・環境をつくるための行動を今すぐに起こさなければなりません。SDGs のキーワードは「誰一人取り残さない」。だれもが安心・安全に暮らせる世の中に変えていく必要があります。

もしかしたら、SDGs はわたしたちとは遠く離れたもののように聞こえるかもしれませんが、地球

の未来を誰かに任せっぱなしでいいのでしょうか。SDGs を達成するためには行政や教育機関、企業、市民社会といったそれぞれの組織が「変革」に向けた責任と役割を担っています。わたしたち市民は、これらの組織に「変革」を求めると同時に、自分自身の生活を見つめなおして行動に移す必要があります。SDGs を達成することは、今を生きるわたしたちが未来から託された責任なのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs と KANSAI-SDGs市民アジェンダとは

あつた のりこ
熱田 典子

わたしは、なぜ市民活動を行っているのでしょうか。

16歳の少女、グreta・トゥーンベリさんが「あなたたちが話しているのは、お金のことと経済発展がいつまで続くというおとぎ話ばかり。恥ずかしくないのでしょうか！」と、国連気候行動サミットで、温暖化対策に本気で取り組んでいないと大人たちに怒りをぶつけた彼女の言葉と行動。彼女の勇気ある言動に心動かされた方は多かったのではないのでしょうか。彼女のように、本当に必要で変えなければならないことをきちんと言う勇気、行動する勇気、見て見ぬふりをしない勇気、間違いをただす勇気をもつ人を一人でも多く増やし、「平和な世界」を目指して市民活動を行っているのではないのでしょうか。

2019年11月に来日されたローマ教皇は「私たちは何のために生きているのかよりも“誰のために生きているのか”」を考えようとのメッセージをくださいました。

私は、国際協力NGOで長年活動を行っています。その中で一番大切なのはお金でも仕組みでもなく、「人とつながり」であると痛感しています。願い・目標を共有し、共に同じ方向を

向くことでお金や仕組みが活かされて行きます。本来「人」として生きることは、全てのどんな命をも大切にしながら、共に生きることを大事にしなければならないはずなのに、何か順番が入れ替わってきている現在、SDGsはそんな私たちに同じ方向を向く機会を作ってくれたように思っています。



— この社会の中でそれぞれの役割を担っている様々なセクターが、理解しあいながら本当に私たちがしなければならないことを共にやる機会を。

— 今、皆がこの地球を持続可能な地球にするために、このままではしわ寄せが必ずやってくる将来世代に、そして常にしわ寄せを被っている発展途上国の人々、社会の中の弱い立場にいる人たちが犠牲にならない社会づくりの機会を。

— 今の社会にあふれている矛盾に目を向け、社会に対してしっかりと見つめる機会を。

SDGsのゴール達成は2030年を目標にしています。あと、わずか10年で、私たちは胸を張って次世代にパトタッチできるでしょうか。

今回のこの機会を十分に活かし、私たち自身も襟を正して、数字だけを追う目標達成にならない為に、一人でも多くの人と共に行動を起こすことをしていきたい。大きく変化している社会、多様性あふれる社会になって来ている社会の中、大切なことにしっかり目を向けていく。そんな願いから KANSAI-SDGs市民アジェンダの集まりをする構想に至ったのです。



市民が動く：より良い社会を築く足場としてのSDGs

いわさき ひろやす
岩崎 裕保

ローマクラブが1972年に発表した「成長の限界」は、環境汚染や資源の激減によって人類は2030-2040年に経済的破局に直面すると言っています。実際、この間の資源消費は、ほぼその予測通りになっています。

2019年9月・10月の台風による被災(者)のことが今も頭からはなれません。日本政府はSDGs実施指針で、SDGsに則って「計画や戦略、方針の策定や改定に当たる」としていますから、こうした被害にいち早く取り組むことがSDGsの実践です。2018年11月に全国知事会は「被災者生活再建支援法」の見直しを政府に提言していますし、その半年前3月には野党6党が同法の改正案を国会に提出していますが、これは審議もされず棚ざらしのままです。

私たちの日々の暮らしとSDGsは直結しています。たとえば、日本の食糧自給率は今や37%です。まっとうな職場でよい仕事ができているでしょうか。日本の子どもの7人に一人は貧困状態にあります。SDGsはこうした課題に取り組むことを求めています。

世界が合意をしたSDGsにはよりよい社会を作っていく足場が示されています。変革の主体は私たち一人ひとりですから、モノを言い合い、行動に繋いでいくことに意味があります。世界中の若者が「不安」や「危機感」を表明しています。そういった状況を歓迎するだけでなく、共有して世論を形成していくことが大切です。

KANSAI-SDGs市民アジェンダ作りは、だれもが参加できる広場です。そこから歩みを進めていきましょう。

何か目新しいことを始めるのではなく、さまざまな課題にきちんと向き合って解きほぐしていくことがポイントです。

グローバルな視野をもって国際協力で問題解決に繋いでいかなければならないのに、熱帯林が、そして極地の氷が消失しつつある中で、G7といった首脳会議はこれを最優先に取り上げていません。経団連はSDGsに則った企業の行動をとるように2016年に「企業行動憲章」を改定し、その中には人権を尊重するということも書いてありますが、経団連会長の企業が技能実習生に関して、この9月に改善命令を受けました。政府や企業はSDGsに取り組む姿勢を見せていますが、それは表面的になってしまっていることは否めません。

SDGsの正式名称は「我々の世界を変革する」です。この文の主語、すなわち変革するのは「市民」です。市民が自分の暮らしを変革し、市民の意識が政府や企業に変革を迫っていくということです。

「奈良新聞にとりあげられました」(奈良新聞 令和元年11月30日付)



あゆ 歩みをすすめるために

この先のページには KANSAI-SDGs市民アジェンダの分科会の記録と「みんなの声」がのっています。

KANSAI-SDGs市民アジェンダの活動で出会ったみなさんから、未来に向けてたくさんの「声」が出てきました。「みんなの声」をよく見ると、「まなび（教育）」「わたしらしくあなたらしく（人権）」「つながり（地域）」「くらしとはたらき（暮らしと働き）」という4つのキーワードがうかんできました。それはまるで「みんなの声」があつまって種や栄養となり育まれたキーワードの木のように。それぞれのキーワードの木は森を作る木々のよう

に根っここの部分でからまりあっていました。この「みんなの声」から作られた森に、みなさんならどんなキーワードの木を植えますか？今あるキーワードの木にどんな言葉をのせますか？ページを読み進めながら一緒に考えてみてください。

SDGsが目指す社会はこの森のように、わたしたち「みんな」の「声」で作られていくのです。

(木の根元の数字はその木の種となった「みんなの声」の数をあらわしています)



1歩め：みんなが「わたし」の声を届けよう～聞こえない声を「聞こえる化」する

(第1回 分科会 人権・ジェンダー)

三輪 敦子

SDGsの中心的理念は、前文にある「誰ひとり取り残さないことを誓う」という言葉に集約されています。「誰ひとり取り残さず」SDGsを実現するためには、人権の視点が不可欠です。環境、経済、社会の課題に統合的に取り組み、持続可能な世界を目指す目標に人権の視点が入ったことは、開発に関するこれまでの努力

と経験と知見を反映するものであり、開発概念の進展と呼応しています。これを「絵に描いた餅」に終わらせてはいけませんし、そのためには市民社会が力を発揮する必要があります。社会の多様性を認識し、包摂性を実現するためには、当事者団体を含む市民団体・NGOの経験と声が重要です。

「誰ひとり取り残さない」人権の視点は、当然ながら女性も取り残しません。人口の半数を占める女性の課題とジェンダーの課題は、その意味で、SDGsの一丁目一番地と言えるでしょう。そして、ジェンダーの視点は、女性だけでなく、社会全体を変えます。無償のケアワークの正当な評価と公平な分担は、男性のケアワークを

促すことにもなり、ワークライフバランスの実現を容易にします。ケアワークが当然の権利と認められれば、女性と男性が安心して平等に力を発揮できる雇用環境にも結びつくでしょう。すべての人がワークライフバランスを実現しやすい社会が実現すれば、少子高齢化の改善にもプラスの影響があります。

重要なジェンダー課題のいくつかを挙げたいと思います。

① 経済的エンパワメント

雇用における男女の平等な処遇、妊娠・出産が不利に働かない制度づくり、ケアワークの正当な評価と公平な分担、ワークライフバランスの実現、持続可能な経済システムの創出、格差の是正

② ジェンダーに基づく暴力

問題の「課題化」、DV、セクハラ、痴漢、レイプ、ストーカー、性的指向・性自認によるハラスメント (SOGIハラ) 等の暴力に関する不処罰の根絶と加害者の処罰

③ 性と生殖に関する健康と権利

自律的主体としての女性の身体の確立、性と生殖に関する健康についての知識・情報・アクセス・選択の保障、人権に基づいた包括的性教育の提供

④ 複合性・交差性差別

女性であることと他のアイデンティティがからみあった差別や抑圧の認識、すべての課題との関連性の理解、女性のなかの多様性の理解と対応

⑤ 性別役割に関する意識と固定観念

ジェンダー規範・「らしさ」の縛りからの解放、個人としての意識の確立

⑥ 平等の保障

医大入試女性差別問題に代表される「両性の不平等」な扱いの根絶

⑦ 政治的エンパワメントとリーダーシップ

クォータ制等、女性の意思決定への参加を促進する制度の導入

SDGsでは「脆弱」という言葉が多用されていますが、女性は弱いわけではありません。問題は「脆弱性」ではなく「周縁性」です。声を出せない、出してもまともに聞いてもらえない、出していいかどうか自信がない... 固定観念や偏見とも深く関係する、こうしたジェンダー意識を変えていかないと本当の意味でのジェンダー平等はないでしょう。

「誰ひとり取り残さない」ために力をあわせることは、社会全体を変える力があります。2030年に、そんな社会が実現しているように、地域から変革を起こしましょう。



第1回分科会 人権・ジェンダー みんなの声

三輪 敦子

「KANSAI-SDGs市民アジェンダ」最初の分科会。市民アジェンダが、本当に市民アジェンダと言えるためには、できるだけ様々な場所で、様々な立場で活動しておられる皆さんの声を集めたいと思い、考え得る限りの方たちに声をかけました。嬉しいことに、予想を超える人数の方たちが集まってくださり、熱気あふれる

「最初の第一歩」となりました。改めて「みんなの声」を読み返し、この「みんなの声」が実現すれば、2030年の関西と日本は持続可能な社会になっているはずとの思いを新たにしています。市民アジェンダを宝に、「みんなの声」を前に進めましょう。

【意思決定】

- ・ 議員を男女半々にする(2)
- ・ 政治におけるクォータ制を実現する (LGBT や障がい者も含めて)(3)
- ・ 2030年までに意思決定の場やリーダーの役割を男女を半々に(2)
- ・ みんなのことを考える政治家を議員に選ぶ
- ・ 政策を自由に話せる場(カフェ)をつくる
- ・ 災害復興に対する男女の平等な参画を保障する

【性と生殖に関する健康と権利】

- (セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ)
- ・ 無痛分娩やピルを無料化する(2)
- ・ 女性が望まない妊娠をしない
- ・ 妊婦さんへの認識や配慮を向上させる (安心して妊婦マークをつけられる)
- ・ 人権意識に立った性教育を小学校低学年からカリキュラムに入れる(2)
- ・ 自由に性的健康の話ができるようになる 性教育の実施(恥ずかしさの払拭)
- ・ すべての大学の教養課程に「人権・ジェンダー」を必修科目化する
- ・ 特に自然科学分野の女性の大学教員を増やす

【国際協力】

- ・ ODAによるインドのグリットの人たちへの支援を強化する
- ・ 現地の人の視点に立った国際協力を実施する
- ・ 途上国での性教育を充実させる

【まなび】

- ・ 義務教育で人権、寄せ場、在日コリアンについて学ぶ機会を保障する(2)
- ・ LGBTIへの理解が進みLGBTIであることをオープンにできるような学校(特に中高)をつくる(2)
- ・ 意識を変える教育をおこなう
- ・ 他人への共感能力を育む教育を実施する
- ・ 10代のうちに「就職」以外の働き方を学ぶ機会をつくる

- ・ 女子のエンパワメントを実現する
- ・ 小中高での制服を廃止する
- ・ 教員の学び直しのためのカリキュラムを体系化・制度化する
- ・ いのちの尊厳、つながり、共生、公正、わかちあい、参加、行動、未来といった科目に関する学びの方法の開拓
- ・ 理念ある学校のための教育改革

【くらしとはたらき】

- ・ ライフイベントにあわせた働き方が男性にもあたりまえになる
- ・ 男性の育児休業取得を義務化するなどし、男性が育児休暇を取れるようにし、男性が子育てしやすい社会にする(6)
- ・ 妊娠出産を理由に女性が仕事を辞めることのない職場、妊産婦が働きやすい職場をつくる(4)
- ・ 働きたい女性が働ける社会をつくる
- ・ 男女に平等な経済的資源と仕事の機会を確保する
- ・ 家庭内で女性と男性が平等に家事やケアワークを担う(3)
- ・ 希望すれば、すべての子どもが保育園に入れるようにして待機児童をなくす(2)
- ・ シングルマザーのエンパワメントを支援する
- ・ 育児・家事労働の価値を認識する

- ・ 女性だからするべき仕事という考えをなくす
- ・ 同一労働・同一賃金や平等な雇用条件を女性・外国籍の人にも保障する(3)
- ・ 企業における正規職員の中途採用枠の増加
- ・ 役職者への女性の平等な登用やクォータ制の導入(2)
- ・ シングルマザーの就労条件を改善する
- ・ 職場の性差別を許さない
- ・ ハラスメントに対する法律についての意識を向上させたり、SOSを出せるしくみをつくる
- ・ 長時間労働を是正し、残業ゼロを当たり前にする(4)

似た意見の「みんなの声」はまとめて表記しています。()内の数字はそのときにまとめた「みんなの声」の数です。

【ジェンダー意識・固定観念・社会・法律】

- ・「嫁」「女々しい」って言い方をやめる(2)
- ・「女性だから」「男性だから」と言わない社会をつくる(2)
- ・性別欄がなくなる
- ・「力」「暴力」に対する価値観を変革する
- ・セクシュアル・マイノリティに配慮した設備(トイレ、更衣室など)を整備する
- ・男女が平等にコミュニケーションできるようになる
- ・女性が自信をもてる、声を出すことのできる社会(2)
- ・男性に女性であることやマイノリティ経験をさせることを義務化する(2)
- ・選択的夫婦別姓制度を実現する(4)
- ・婚姻制度を見直す
- ・ジェンダーは女性だけの問題ではないことへの理解を促進する
- ・意識を変革する
- ・LGBTを自由にカミングアウトできる環境をつくる
- ・SOGI差別禁止法を制定する
- ・女性自身が可能性をせばめているような意識を変革する
- ・性別役割意識を変革する(2)
- ・性差別を「見える化」する

【ジェンダーに基づく暴力】

- ・女性専用車両がなくなる
- ・性産業がなくなる
- ・DV/IPVをなくし、DV被害者・性暴力被害者への支援を強化する(2)
- ・性犯罪加害者への教育やコンサルテーションをおこなう

【わたしらしくあなたらしく】

- ・幸福になる権利がある「個人」として認識され、ひとりひとりが大切にされる社会をつくる(3)
- ・女とか男に関係なく、個人で理解される・つながるコミュニティをつくる
- ・個人には自己決定する権利があることを一人ひとりが理解する
- ・万人は平等という意識を育てる
- ・差異を認めあう
- ・マイノリティを尊重し、権利を保障する
- ・在日韓国・朝鮮人に対する差別を解消する
- ・被差別部落に対する差別を解消する(2)
- ・外国籍の人たちと友好的な関係を築く
- ・外国にルーツがある人への配慮が行き届いた社会をつくる
- ・置き去りにされてきた人、周縁化されたコミュニティへの視点を大切にする(2)

【法律・行政・制度】

- ・子どもへの虐待をなくし、虐待に効果的に対応できる体制をつくる(2)
- ・すべての子どもが栄養を摂れるよう子ども食堂を整備する
- ・里親制度を普及させる
- ・被爆からの自由(避難の権利・選択的被爆回避権)を確立する(2)
- ・災害時における災害情報への自由なアクセスと知る権利の保障、人権擁護を確立する(3)
- ・原発被害を解明し解決する
- ・ネット上における差別や暴力を解消する
- ・路上生活者に対する支援を充実させる
- ・生活保護に対する偏見を解消する
- ・難民にやさしい(受け入れる)社会をつくる
- ・今ある法律や施策を確実に実施する
- ・女性、子ども、障がい者を含むSDGs実施体制を強化する
- ・行政と民間団体の連携を促進する
- ・暴言や差別発言をおこなう国会議員は即辞任させる
- ・ヘイトスピーチをなくす
- ・サプライチェーンにおける人権を保障する

- ・人権に配慮したエンタテインメントを実現する
- ・マスメディアの質、モラル、人権感覚を向上させる
- ・当事者が発言できる・議論できることを保障する
- ・やり直しのきく社会を実現する
- ・能力主義・優生思想をなくす(2)
- ・弱い人がやすらげる地域社会をつくる
- ・人権が実現する社会環境を創造する

LGBTI……性的マイノリティ

SOGI……性的指向・性自認

IPV……親密なパートナーからの暴力

第1回分科会 人権・ジェンダー みんなの声

2歩め：何が大切か考えよう！～災害が来る前に～

(第2回 分科会 災害)

よしつばき まさみち
吉椿 雅道

2018年は災害がとても多かったですね。その多くはアジアで起きました。日本では、大阪や北海道の地震、大雨や台風で岡山、広島に大きな被害が出ましたね。外国では、インドネシアなどで地震や津波、火山噴火が起きました。

「災害 (Disaster) は、自然の現象 (Hazard) が、弱さ (Vulnerability) と出会うと起きる」という言葉があります。災害は、その場所に元々あった問題が表に出てきて、その社会の弱いと

ころがより大変なことになります。普段から大変な人たちは、災害が起きるともっと大変になります。



去年、日本で起きた大雨や地すべりは、防災対策が不十分だったことや早めの避難をしなかったことなど、人が原因であったことがわかりました。被害を全くなくすることは難しいですが、普段から対策をしていけば、被害を少なくすることはできるということです。これを「減災」といいます。

SDGs の17のゴールには、「災害」という言葉はありません。一般的にゴール 1「貧困をなくそう」やゴール 11「住み続けら

れるまちづくりを」、ゴール 13「気候変動に具体的な対策を」などが災害に関係すると言われています。また、169のターゲットを見てみると、ゴール 1、2、11、13、15などに災害という言葉がたくさん出てくるように、世界で起きる自然災害への防災・減災は、世界で一緒に考えなくてはならない問題です。

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から25年が過ぎました。被災地であるKOBEの人たちは、この25年間「最後の一人まで救う」という高い目標をめざして、支援活動をしてきました。「最後の一人まで救うことはできるのか？」という問題を何度も考えてきました。そして今、「支援する一人ひとりが、出会った目の前の人を最後の一人と認めて支援していけば、必ず最後の一人まで救える

のではないかと」のように考えるようになりました。

SDGsの前文に書かれている「誰一人取り残さない」社会を実現していくためには、一人ひとりが目の前の人、身近な人に対して「最後のひとり」だと思って助けるしかないのかもしれないですね。



2018年は大阪北部地震が起きたこともあり、災害を身近に感じ、他人事ではないと思った人が多かったのでしょうか。「備え」が大切であるという声がとても多くありました。備えをしておくことで被害を減らす「減災」が重要であること表しています。

また、表現は違いますが、普段の地域のつながりやまわりとのコミュニケーションが大切であるという声も多く、身近な当たり前の事を見直すことの大切さが見えてきました。

【つながり】

- ・ 平時のコミュニケーション
- ・ 助け合い
- ・ 地域のつながり
- ・ 顔の見える関係
- ・ 多様性のあるコミュニティづくり
- ・ 自助、共助の精神

【まなび】

- ・ 防災教育の質を高める
- ・ 教育が大切(自由、権利)
- ・ 子ども世代に定期的な学習時間を持つ
- ・ 人権教育(デマ、ヘイト)
- ・ 意識を持った避難訓練
- ・ 災害意識を持続させるための方法を考える
- ・ 災害訓練の国際共有
- ・ 知恵の共有

【わたしらしくあなたらしく】

- ・ 災害弱者への援助
- ・ 情報弱者である外国人(留学生、観光客)の方への情報提供(4)
- ・ 障がい者など要配慮者への情報提供(2)
- ・ 避難所でのプライバシー
- ・ 人権教育(デマ、ヘイト)
- ・ 帰宅困難、帰宅難民(6)
- ・ 多言語での災害情報

【くらしとはたらき】

- ・ もしを考えた生活づくり
- ・ 生活の見直し
- ・ 多様性を有するコミュニティづくり
- ・ レジリエントな街づくり
- ・ 災害後の働き方
- ・ 職場での災害準備

似た意見の「みんなの声」はまとめて表記しています。()内の数字はそのときにまとめた「みんなの声」の数です。

私が描く2030年のKANSAI「災害」

人権が たいせつ 教育も	つながりある 「備え」を	ココチ良い減災の取組 オモの乗りに防災減災	災害時起こても 誰か取り残さない 地域づくりを
1人ひとりで つくる減災	社会全体で、 誰ひとり取り残さないように 普段から取り組む	・防災・減災教育の充実 ・ネットワークの構築(平時のつながり) ・レジリエンスを!!	自然災害とともに生きる
地域(町内)における 日頃からの助け合い!	市民の声で(万博の 取組)防災をSDGs 討論の軸にしよう!!	事前の備え	平時から つながりのある 社会へ

3歩め：みんなで生きていく社会ってどうゆうこと？

～入管法改正から考えるこれからの社会（第3回 分科会 多文化共生）

田尻 忠邦

第3回目の分科会は、旧植民地出身者のコリアンや中国出身の人に加え、多様な国からの多様な背景の人々が住む関西において外すことのできないテーマとして「多文化共生」について意見交換をする場を作りました。ちょうど、第3回分科会「多文化共生」の開催日である12月8日の朝早く、入管改正法が参議院を通りました。これから5年間で34万人の外国人労働者を受け入れることになります。「多文化共生」について一緒に学び、話し合うにはとても良いタイミングとなったのではないのでしょうか。

まず、今回の入管改正法案の中心について特定技能1号と家族を一緒に連れて来ることやずっと日本に住むことができる特定技能2号についてざっと見て、本当のところ外国人労働者を受け入れるシステムとなっている技能実習制度が持っている問題点について意見を出しました。その後5つのグループに分かれて、入管改正法案について賛成か反対かについて意見交換をしました。フロア全体としては、技能実習制度が持っている多くの問題が十分に解決していないのに改正案を国会で決めるのはまだ早いという意見が大部分でした。

続いて、多文化共生にむけた国と自治体と市民の取り組みについて詳しい話がありました。国と地方自治体の取り組みについては、平成18年3月27日付で総務省自治行政局国際室長から各都道府県・指定都市外国人住民施策担当部長宛に送られた「地域における多文化共生を進めるプラン」のコピーが配られました。内容は、外国人住民の人権を守ることやコミュニケーションのお手伝い、生活のお手伝いなどとても良いものです。しか

し、本当の問題としては、地方の政府にそのまま任されていて、都道府県・指定都市間で大きな違いが起こっていることが問題です。

その後、一つひとつのグループでそれぞれが通っている学校、団体における多文化共生の取り組みについて情報交換をして、多文化共生のあるべき姿、方向性について話し合いました。同じような意見としては、多言語翻訳通訳サービス、災害の時に情報が届かない外国人に情報を送るシステムをちゃんと作るということが言われました。また、これから外国人労働者を受け入れる時

に地方自治体が、それぞれの地域に住んでいる人に色々な人がいることや、一つの社会の中で一緒に生きていくことについてきちんと教育することが期待されています。異なる文化、習慣によって起こるであろう問題に対応し、民族差別と文化的偏見をいかになくしていけるかが、今後の大きな課題であるという意見が出ました。



入管改正法案については、基本的には反対ではないのだけれども、日本の社会全体としては、法案を受け入れるのは、まだ早すぎるとい意見がたくさんありました。その理由としては、日本語教育の制度がまだ十分でないこと、特に将来的に家族を日本に連れてき

た時の子どもの教育の問題や、新しく日本に来た家族が日本でうまく生活できるサポートシステムがまだできていない事が言われました。

【つながり】

- 地域の人々には外国人と同じ地域に暮らすことに抵抗感がある人が多い？
「共生」が生み出す豊かさをこの国の中に実現する契機になることを！(2)
日本国内の国際化や人々の意識が変わるきっかけになる(2)
生野区サラダボールプロジェクト
食文化を通じた交流(6)
KANSAIに限定することでKANSAI以外の人々が共生できないという問題を認識すべき。地球市民という重要さ
異文化間交流の場作りやあり方(6)
地理・文化・医療ガイド
国際結婚で子どもに障がい(がある場合の支援)
NGO・NPO、国際交流センターの活用(3)
地域の人とであったり、つながったりする場づくりの必要性(3)
以前より多くの人に住んでいて、特別なこと、遠い話、ではない…(2)
在日(在阪)韓国人、朝鮮人の方々と共につくるKANSAI
高齢化社会は20年前から

【まなび】

- 互いの文化を理解できていない
外国人と支援機関・団体のつながりが不十分(個人情報)
日本語教育や多言語表記、やさしい日本語による言語保障(5)
外国語ボランティア
「日本」という国、日本人という自分自身の理解(2)
災害情報の外国語での提供((震度)1と5どっちのほうがキケン)
日本在住の華人母親の育児交流会&絵本読みあげ会
外国人の子どもの教育の保障(3)
留学生の学校内での人権や安全の保障(2)
シティズンシップ教育や多文化共生教育が必要(子どもも大人も)(6)
郷に入りては郷にしたがえからぬける(2)
学校、事業者、地域など多様なセクターで意識を
日本語、仕事、研修制度(教える人手など)
SDGsを盛り上げる

【わたしらしくあなたらしく】

- 移住する人々の権利をどう保障するかの観点が存在しないことが前文の欠陥
家族とすげせない非人間的な扱いが技能実習でもあるが総括されていない
住居借りられない
制度のグレー部分は明確になる。社会制度、人権制度、制度のなかみを整える必要がある
「多文化」とは？外国人だけでなくマイノリティとの共生？
日本人・外国人に関係なく同じ人権を保障する(6)
「日本人」の固定観念を変える(肌の色、言語)(4)
多様性への理解はまだ、(ダブル？ハーフ？)深めたい(2)



【くらしとはたらき】

- ・一緒にはたらく環境が整っていないのでは？(2)
- ・コンビニ等働き手が少ない実情がある。コンビニの数を減らす働き方を変えることも考えるべきでないか。便利さを追求し過ぎ
- ・外国人を生活者としてではなく労働力としてのみ扱っているのでは？(6)
- ・仕事につけてない人はいないの
- ・日本での生活の問題。5年、10年 滞在したら家族ができその受け皿をどうするか(2)
- ・職場での問題(セクハラや長時間労働)(3)
- ・外国から来た人の技術、文化やセンスを活かしたビジネス、働き方、働き甲斐(4)
- ・食文化や食の多様性に対応する(ベジタリアン、ハラール)(2)
- ・言語や文化をお互い学ぶグループをつくる
- ・ホームスティマッピング
- ・観光(国の光を見る)(自分たちの文化を見つめなおす機会)
- ・NPO= ボランティア？きちんと予算取って
- ・インターンボランティアを受け入れています

- ・ただし日本にいる日本人が外国人を受け入れる努力、理解が必要
- ・どんな形であれ、始めないと始まらないから
- ・実習生ハングリー精神あり

【せいじ】

- ・市民(団体)と行政・公的機関との間のカベ
- ・新技能実習制度は基礎資料、議論不足(6)
- ・外国人の受け入れ体制に関する準備不足(国、地域)(4)
- ・外国人人材が日本に来て働く中で生じるバリアや課題と日本社会との隔たりを感じる(実習生活、研修先の決定、政治への意思表示、公共サービスへのアクセス、法律問題など)
- ・シティズンシップに関する根本的な議論がないまま進んでいる
- ・実際のところそれぞれの地域に丸投げ？
- ・難民救済
- ・難民問題と一緒にたになってる
- ・問題だと思うのは、もう国会の体をなさず議論がしっかりとできていない、この問題に限らず与党大勝の流れを作っている国民一人一人の問題だと思う。

【けいざい】

- ・低賃金、貧困の問題(3)
- ・人材集め競争は世界規模優遇策を求められる
- ・サプライチェーンの透明化(企業により差)(2)
- ・奨学金制度
- ・世界も日本も人材不足(7)
- ・賃金は悪くない楽な仕事へ？

- ・技能実習制度ではなく、労働者として正式に働いてもらうと明言した(2)
- ・日本国内の国際化→国民の意識
- ・共生と庇護
- ・災害時の対応→タオルプロジェクト：災害時の行動の仕方を書いたタオルを作製
- ・朝鮮学校無償化運動の支援

第3回分科会 多文化共生 みんなの声



4 歩め：持続可能な未来のための教育について考えよう

第4回 分科会 教育

新田 和宏

質問します。親が自分の子どもを教育するときに、次のどちらを大切に思いますか。選んでみてください。

- ①「しつけ」
- ②「思いやり」

さあ、選ぶとなると、少々困りますね。両方とも大切と考えられます。一つに絞るとなると、大変むづかしい。それでも、一つ選んでみてください。考えるヒントが、実はSDGsにあります。ゴール4の教育。その中のターゲット4.7にです。

2030年までに、持続可能な開発のための教育（ESD）および持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダーの平等、平和と非暴力の文化の促進、グローバル・シチズンシップ（GCED）、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、様々な人たちとともに、かつまた力を合わせて、持続可能な開発を促進するために必要な知識および技能を習得できるようにする。



世界には、自分とは違う意見や価値観を持つ人びとや、宗教や民族、および性的指向などが異なる人びとがいます。SDGsは、そのような「様々な人たちとともに、かつまた力を合わせられる」ような態度を育てながら、「持続可能な開発を促進するために必要な知識および技能」という能力が習得できるように、質の高い教育を求めています。

そうすると、SDGsは、「しつけ」よりも「思いやり」の方が重視しているように思われます。「思いやり」は、「誰一人取り残さない（Leave No One Behind）」ということの基本ですね。

私が描く2030年のKANSAI「教育」

関西の学校教育にSDGsの視点をいれよう！	多様な人々の交わりを通して学ぶ実践的な知識	子どもは好きなことを見つけて気軽に描せる	自分の頭で考え決める人を育てる。
男女が平等に扱われる（SDG1に間わず）孝教育	"好き"を大切にできる人づくり <small>自分と相手をよく知り、一緒に喜びを分かちあうこと</small>	多様性、尊重 批判力と変革	幼児から大学まで、SDGsに関わる教育を必修に

それでは、凍てつくような寒い冬の日に、肥後橋の会場に集まり、熱く盛り上がった教育分科会に参加した、みんなの声を改めて聴いてみましょう。

【みんなが、わたしらしくあなたらしく】

- 自分の意見が言える ・ 対話
皆が活躍できる指導法(カリキュラム)
他人のことが理解できる様々な教育
多様性を受け入れられる教育(5)
女性が自信と自己肯定感を持てる教育(2)
SOGIに対応出来る教育
男女が不平等に扱われない教育
Conflict resolution ・ 質の高い性教育
発達障がいなどの可能性がある子たちが気軽に相談できる場所作り
(母)親が気軽に相談できるカウンセラーをこども園、幼稚園にも
子どもが子どもらしくいられる学校
子どもが責任の意を理解できる教育
自由な教育→本当の自由 ・ 自立できるための教育
国民じゃなくて日本に暮らすすべての人を対象に教育の機会を保障する(2)

【かわる+かえる】

- 現在世界にある問題・課題についての理解を深める
SDGsを達成するための教育として、ESDを転換できるか?
環境教育主導ではなく人間の生き方を支えていく教育である必要
変革は教育の大事な機能(2)
未来を見通し論理的に考えられる教育、人材(2)
いろんな視点から考えられる人材
まず教育の基本理念・人類は一つ・共生と協力・多様性の尊重
人間としての生き方を教える教育に変えよう。
今はテクニクになっている(3)
批判的な見方もできる人材 ・ 教師の評価
自発的な活動が出来る→考える習慣 コミュニケーション
公設民営 中高一貫 国際学校 IB(インターナショナル・バカロレア)スクール

【まなび】

- (教育テーマ)琵琶湖再生法について
サーキュラー、エコノミー(教育テーマ)CE-100
子どもが自分の好きなことを高める授業時間

【みなおす】

- 「誰も置き去りにしない」スローガン SDGsの前提が置き去りにされていないか?
学習指導要領(2018小、2019中)道徳教育の教科化
現場で学ぶ、現場から学ぶ、学習方法の確立 現場=課題
日本における development の解釈 価値人格vs人材・人的資本
教育の質ESDのこれまでをどう評価するか?
環境省にESDはおまかせにしている文科省?(2)

- 経済性、社会性、環境性への理解
現実、学校教育にSDGsを取り入れられない
学校全体 安心安全 教員の働き方 子どもの貧困
(SDGsを)具体的な教科化
(SDGsを)教免の更新に入れる
Global citizen のリアリティーは?
グローバルリーダー 競争型 共生と創造

【つながり】

- 世代も超えて ・ アジアの国を幅広く見られる ・ グローバルでの常識の共有? ・ 大阪ならではの
世界の現状を理解する ・ SDGsは共通言語 ・ 会話を重視する ・ 共感の言葉がけ
ICT化でいろいろな国の友達と交流する ・ 優しい表現、情報の民主化 ・ おおきに!人情

では、どうするか。今後の課題。これもみんなの声を拝聴しましょう。

【どうする=はじめる+おこなう+つづける+つなげる】

- まずSDGsについて認知させる教育 ・ SDGsを自分ごとに落とし込む ・ ライフスキルをつける、高める
現職教員へのSDGs研修(2) ・ リーダーシップの育成(2) ・ 実学教育(2) ・ 大学のカリキュラムでSDGsの必修化(2)
自治体で話し合いの場を ・ 事業を刷新するSDGs研修 ・ SDGsの使い方 ・ 吉本×SDGs ・ 面白い教育
多様な教育(社会教育、学校教育、社会環境教育、母乳育児教育) ・ 子どもが好きなゲーム、スタンプラリーの開発
グローバルシチズン グローバル人材養成社会環境教育(2) ・ 教員への資料のビッグデータ化 ・ 草地さんのような人

似た意見の「みんなの声」はまとめて表記しています。()内の数字はそのときにまとめた「みんなの声」の数です。

5歩め：働くことと生きること～安心して働くことができる社会をつくろう～

第5回 分科会 持続可能な働き方・ビジネス・人権

岡島 克樹 松岡 秀紀

開発途上国だけではなく、最近では、日本をふくむ先進国でも、「働く」ということが「安い」「長い」「不安定な」ことになってきています。そのため、働いても働いても生活に不可欠なものが買えなかったり、からだやこころの健康を害し、なかには死にいたりすることが後をたちません。わたしたちが生きる現代は、働きつづけることがとても難しい、つまり、「働く」ということの持続可能性が大きく損なわれている時代なのです。

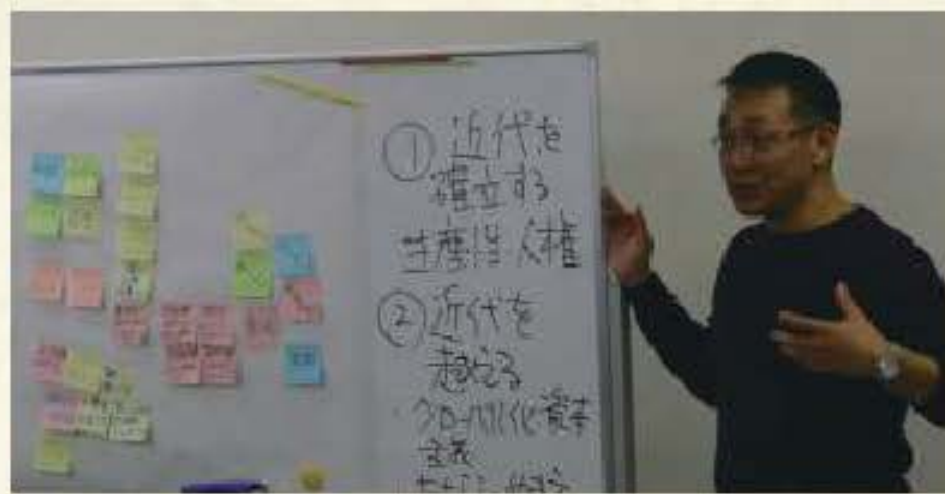
こうした状況のなか、1990年代後半から、国際的には「ディーセント・ワーク」が大切だと言われるようになってきました。こ

の「ディーセント・ワーク」とは、ILO（国際労働機関。国連の専門機関の1つ）によると、「権利、社会保障、社会対話（注：企業側と労働者側との話し合い）が確保されていて、自由と平等が保障され、働く人々の生活が安定する、すなわち、人間としての尊厳を保つことができる、生産的な仕事」を意味します。ちょっと難しい定義かもしれませんが、大事なことは、「働く」場所があるだけでは十分ではなく、そこで「働く」ことが、働きがいがあり、人間らしいものであることが求められるようになってきている、つまり、社会のなかにある仕事の量だけではなく、質にも注目していく必要があるということです。

SDGsでも、このような考えから、ゴール8「働きがいも経済成長も」が設けられています。とくにターゲット8.5は、「2030年までに、若者や障がい者をふくむすべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する」と述べています。また、ターゲット8.8は「移住労働者、とくに女性の移住労働者や不安定

な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する」とし、おもに外国人労働者の権利保障を目標にかかげています。

日本でも、「働き方改革」のもと、労働時間の短縮と同一労働同一賃金（正規・非正規間の不平等の解消）という2つを柱にする取組が始められています。また、日本で働く外国人労働者は増え続けていますが、2018年末の入管法改定では法務省が「総合的対応策」と呼ばれる政策をまとめました。SDGsにあるような「働く」ことについての危機意識は、かけ声だけにおわらせることなく、実際に、「働く」ことについて決められたルールが守られるようにしていかなければなりません。



第5回分科会 持続可能な働き方・ビジネス・人権 みんなの声

岡島 克樹 松岡 秀紀

以上のような発題をふまえて、参加者のみなさんからは実にいろいろな声が出てきました。以下は、その多様な声を3つに分けた結果です。

【わたしらしくあなたらしく】

- 一人ひとりが自分の能力を発揮できる働き方
- 人生を充実させる働き方
- みんなが個性を活かしていきいきと働ける
- ワクワクする仕事を選ぶ働き方
- 働くことが人間らしく生きがいになっている

【まなび】

- 若者が自分を守る教育 ・学校での人権教育
- ディーセント企業を見極める目を養う ・もったいない教育
- 教員の仕事の分担 ・ディーセント・ワークを阻む要因の研究
- 消費者への教育 ・友人・親戚・家族にSDGsを伝える
- 安さ追求の価値観を変える ・外国人労働者への理解

【くらしとはたらき】

- 企業側が過剰サービスをやめる ・無駄な会議をやめる ・勤務時間の上限をまもらせる ・定時退社を基本に
- 働き方タスクフォースを設ける ・労働時間の柔軟化 ・安心して休める ・外国人が働きやすい職場環境づくり
- 妊娠・出産が不利にならない ・女性は給料が低いというようなイメージをなくす ・働く女性の足かせにならない制度改革
- 産休、育休をとりやすく ・子育て世代への理解を ・高齢者や障がい者に対する就労支援 ・最低賃金を上げる
- ブラックな働き方についての相談窓口の設置 ・長期パカンス法 ・基礎控除の充実 ・優良企業を特定するしくみ
- ディーセント企業を支援する表彰制度

みんなから集まった声は、わたしたち市民が自分らしさや自分の得意なことを抑えながら働く現状を反映し2030年までに、もといきいきワクワク働く場を願っていることを示しています。また、その願いを実現するためには、若者や女性、障がい者、

高齢者、外国人等、「誰も取り残さない」を原則にしながら、企業や行政、教育・研究機関がおこなうべき具体的な取組についてのアイデアをわたしたち市民がもっていることも示しています。

私が描く2030年のKANSAI「持続可能な働き方・ビジネス・人権」

人生を充実させる働き方	誰もが輝くことのできるフィールドを輝くことのできる社会!	ワクワクする仕事を選ぶ働き方、社会	次世代の憧れ、NGOへの働き方の確立を
わくわく見える化	安心して休める社会 (柔軟な働き方あり)	市民一人一人が「働きがい」をもち、元気に働けるような社会。	年齢・性別に関係なく平等に働ける社会。
一人でも多くの若者が「ディーセントワーク」につける社会になっていくこと!! (関西)	ディーセントワークがあたりまえな時代!!	どんな仕事をしていても自信をもって、活き活き働いていける世の中!	働くことが人間らしく生きがいになる社会に

6 歩め：地域から、市民から、持続可能な地球づくり・世界づくりをはじめよう

第6回 分科会 環境

すずもと いくお
枚本 育生

SDGs のいう持続可能な社会のためには、「環境」「経済」「社会」の調和がとても大切で、どれが欠けてもみんなが生きていける地球にはなりません。今、「環境と調和した持続可能な社会づくり」の実現のためには「経済・政治等の社会システムを変えること」と「人々のライフスタイルを変えること」が重要といわれています。社会システムをつくることは国の仕事でもあります。ライフスタイルを変えていくこと、これは私たち一人ひとりが取り組めることです。

まずは、気候変動について考えたいと思っています。国連では「人類は歴史的な境界を越え、新たな危険領域に突入した」と

日本では、「地球環境問題は大きな課題なので、まずは地域でできることをしていこう」と考えられることが多いのですが、地球環境問題は、実は私たちが生活をしている「地域」を変えることで問題の解決につながるのです。

そして、一つの環境の問題を考えるのではなく、他の環境問題とのつながりや経済、社会的な「公」といった課題も含めて考えることが重要で、これはとても難しいことですが大切なことです。たとえば、地球温暖化問題は、地球温暖化が抱える「世代間の不平等」と「南北の不平等」といった問題が背景にあることも理解しておかなければなりません。

また、現代は第6の絶滅時代といわれていますが、このままだと25～30年後には地球上の全生物の4分の1が絶滅するといわれており、その要因の一つは気候変動であって、これは人間の経済活動と生活が原因となつて作り出されたものです。この問題は、誰もが考え、誰もが解決に向け取り組む必要があります。そして、いずれの活動も性別、年齢、職業を問わず参加できなければいけません。

私たちは大量生産、大量消費、大量廃棄によって成り立つ経済発展で物質的な豊かさを得ることはできましたが、そのつけが回ってきました。私たち市民が解決にむけて取り組む必要があるのです。

警笛を鳴らします。日本では、2018年7月西日本豪雨によって広域で大きな被害が生じ、フィリピンを襲った2013年台風30号は、死者・行方不明者を8000人以上出したと言われています。水深100mまで海水温が上がり、海からのエネルギー補給で台風が早い勢いで発達したことが被害を拡大させました。地球温暖化がすすむと、異常気象の多発・災害の増加・海面上昇・食糧生産の減少・水不足・健康への影響・生態系の崩壊・経済への影響など、私たちのくらしや経済に大きな影響を与えます。



第6回目の分科会は「環境」がテーマです。私たちは「地球環境問題は大きな課題なので、まずは地域でできることをしていこう」ととらえがちですが、私たちが生活をしている「地域」を変えることが問題の解決につながるのではないのでしょうか。

ひとりの市民として、地域社会、自然環境を大切に丁寧に暮らしていきたい、次世代に豊かな自然を残したいというたくさんの声、この「声」を大切にすること、この「声」を発信していくことが、持続可能な社会の実現につながっていきます。

【エネルギー問題】

- ・原発に頼らない電力、化石燃料に頼らないエネルギー
- ・温暖化と公害の問題を引き起こす石炭火力を止める

【ゴミをどうする?】

- ・自動販売機が多すぎる、減らすべきでは(3)
- ・プラスチックごみの削減(3)
- ・とにかくゴミを減らす
- ・リサイクル



【外国のいいところをどんどん吸収】

- ・プラスチック袋のリフューズ
- ・日本の3円、5円は安すぎる、デンマークでは500円くらいした!!
- ・紙のストローなど、海外の動きの方がはやい
- ・生ごみをコンポストにして活用する農業を使わない農地改良

【いままでのいきかたを考える】

- ・今までのものの価値観を再考
- ・社会の在り方考える
- ・持続可能な生き方の人に出会う
- ・オーガニックの生活に変わる、変える

【くらしをみつめる】

- ・地産地消を進める
- ・生産者の視点、オーガニックの生活に
～オーガニック等エシカルなものは高いという先入観をもたない
- ・環境問題を考える機会を増やす ex. アースデイ
- ・環境に取り組むNPOを応援する
- ・アニマルウェルフェアに配慮した肉・卵・牛乳を消費する
- ・チョコレート、紅茶は、FT(フェアトレード)や
レインフォレスト認証がついているものに
- ・コットン100%の服にしてい
- ・野菜や果物は無農薬減農薬のものを選ぶ
- ・動物実験をしていない化粧品を選ぶ
- ・持続可能な天然ゴムの靴
- ・公共交通機関を使う、できるだけ歩く
- ・プラスチックフリーを目指した生活
- ・飼料を多く使う牛肉を殆ど買わない
- ・電気の無駄遣いをしない

【まなび】

- ・子どもができる取り組みを見える化する
- ・子どもたちに環境について考える機会を、環境教育を充実
- ・環境問題を考えるキャンプへの参加

【わたしらしくあなたらしく】

- ・環境を守ることが人権を守ることにつながる
- ・人権の視点で社会の在り方考える
- ・将来世代につけを回さない、回したくない

【実現に向けて】

- ・市民の考え(思い)を政治的意思につなげていく



海をこえて一歩：C20 サミット分科会「アジアの市民社会」での報告

いわね あずさ たかはし みわこ いわさき ひろやす
岩根 あずさ 高橋 美和子 岩崎 裕保

C20 サミットでは G20 に向けて、世界の市民社会 (Civil Society) が意見を表明します。2019年の C20 は東京で4月21日から23日に開かれました。KANSAI-SDGs市民アジェンダはアジアの市民社会に関する分科会で活動の報告をしました。

国際的にも市民社会の活動は制限される方向へと進んでいます。一方で SDGs のゴール 17「パートナーシップで目標を達成しよう」にもあるように、SDGs を達成するためには多様なステークホルダーがパートナーとなり問題解決に取り組まなければいけません。

KANSAI-SDGs市民アジェンダの取り組みは、市民が主体となりSDGs達成に向けてどんな社会を作りたいか、どうなりたかかを考えてきました。報告では、これまでの分科会の様子とこれまでの学びを紹介しました。また、分科会をすることで参加者が SDGs に掲げられている課題から国際的な視点を得て、自分の生活や、関西・大阪の社会を見つめなおすきっかけになってきたことを報告しました。

発表後、中国、ニュージーランド、モンゴルの方から「自分たちの住む地域でもローカルアジェンダ策定に取り組んでみたい」とコメントをもらいました。SDGs ローカルアジェンダを作っていくことで、世界の市民がつながっていく可能性もとても楽しみです。



Mappy Photo

いろんな地域と一歩：G20大阪市民サミット「地域社会・SDGs」分科会を通して

いわね あずさ たかはし みわこ いわさき ひろやす
岩根 あずさ 高橋 美和子 岩崎 裕保

G20大阪市民サミットは、G20 サミット開催地である大阪で6月25日、26日に開かれました。G20 サミットは私たちの生活にかかわりのある会議です。大阪や関西、日本各地さらには海外の市民社会のメンバーが参加し、これからの社会や世界に向けて市民の声を発信しました。KANSAI-SDGs市民アジェンダでは「地域社会・SDGs」として、SDGs地域アジェンダ作りを通して地域からSDGs達成を目指す日本各地の市民社会とつながりを作るための分科会をしました。分科会では活動をする中での共通の課題や取り組みの様子を報告し合いました。

SDGs が掲げる目標は国際社会の課題だけのように捉えられがちですが、地域社会や毎日の生活に関わる課題でもあります。例えば、関西や大阪でも格差や貧困、マイノリティの課題があります。これは SDGs にも関係するみんなで解決しなければならない課題です。

これらの課題を人ごととするのではなく、自分たちの足元から課題解決に向けて動き出すことこそが SDGs の目標達成に向けて必要な一歩です。また、それぞれの人の多様性を尊重しあう

ことでより豊かな社会ができていくように、地域ごとの特色や多様性を尊重しながら SDGs の議論をすることの大切さも分科会の中で確認できました。

- 分科会でお話した人**
- 開発教育協会・関西NGO協議会 監事 岩崎 裕保
 - SDGs市民社会ネットワーク事務局長 新田 英理子
 - アジア協会アジア友の会副事務局長 熱田 典子
 - 沖縄NGOセンター代表理事 玉城 直美
 - 岡山NPOセンター代表理事 石原 達也
 - さっぽろ自由学校「遊」事務局長 小泉 雅弘
 - 環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま) 副事務局長 堺 勇人



高校生が考える持続可能な世界：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

谷川 詩織

関西では、世界をより良く変えていこう！という高校生たちが集まって、「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」という国際協力フェスティバルを開催しています。このイベントを作る高校生たちには、最初にSDGsを紹介します。

「国際」というテーマに関心を持って集まった高校生たちにも、最初はSDGsを知らない人が多くいます。そこで、多様なゴールとカラフルなロゴが、世界の様々な課題を整理して周りに伝えようとする時の助けになり、特に2017年、2018年はSDGsを意識したプログラムが多く作られました。

SDGsを知ることは高校生たちの身近な生活にも変化を起こしたようです。「街中にあるSDGsのロゴに気がつくようになり、世界が進んでいく方向を感じた」「何気なく食べているものに(世界の問題との繋がりを知り)、消費者としての責任を感じるようになった」などの声もでてきました。

若い世代にとっても、SDGsは他人事ではありません。今、世界がどんな行動を起こせるかが、自分たちの将来に大きく関わってくるのです。



KANSAI-SDGs市民アジェンダをユースと一緒に作ろう

栗田 佳典

2018年12月24日、大阪YMCAで「若者とSDGs～SDGsユースアジェンダキックオフ大会」を開催しました。50人の高校生や大学生を中心にSDGsに関心がある若者が集まり、「私たち日本の若者に何ができるか」という視点で、SDGsを自分ごとにとらえるための話や「若者と教育」と題して日本の学校教育についてグループで話し合いました。

当日の進行は、JYPS (Japan Youth Platform for Sustainability) と立命館大学 Sustainable Week 実行委員会のそれぞれのメンバーが務めてくれました。

主にSDGsのゴール4「質の高い教育をみんなに」をテーマに、「何が現状で問題となっているのか」「どのようにそれを解決していくのか」「未来はどの様になっているのがよいのか」をグループで考え、そこから導き出された様々な意見を参加者で共有しました。

「先生が大変そう。もっと休暇などの待遇を改善させてほしい」と現役高校生から教育現場における課題が出たのも印象的でした。

参加者が描いた教育現場の未来としては、「どのような国や文化圏に生まれても教育が受けられる世界を目指したい」「先生が働きやすい環境づくりが必要だ」などの意見が共有されました。イベントを通じて、SDGsを自分ごとと捉えながら、課題やその解決策を考える機会となりました。



これから SDGs に取り組みたい団体と一歩

高橋 美和子 佐久間 量子

SDGs の達成に向け、国や地方自治体、企業、教育機関などが求められる取り組みに関する指針の策定、意見の発信、フォーラムやセミナーなど様々な活動を展開しています。関西でも、SDGs に関連するプラットフォームが設立され、SDGs をテーマとしたシンポジウムも多くみられるようになりました。

さて、このように大きな動きがあるのは事実ですが、SDGs が企業のイメージ戦略などに利用され、その目的が「経済」発展の側面に少し傾きすぎていると感じたことはありませんか。

「誰一人取り残さない」とするその理念を達成するには、経済成長だけではなく、社会的包摂、環境保護という3つの側面が調和されなければなりません。そして、その根底には、人、自分、そして次世代に引き継ぐべき自然環境を大切にすることが必要です。



関西NGO協議会では、大阪、和歌山、奈良において、NGO・NPO が企業・行政・教育機関・メディアなど他セクターの方々と一緒に SDGs について学べる研修を開催し、パートナーシップを意識しながら実践につなげていく取り組みを行っています。地域社会のあらゆるセクターを SDGs の共通言語でつなぎ、その達成にむけてともに歩もうとする挑戦、多くの方と一緒にできることを楽しみにしています。

企業と市民社会が一緒に一歩

松岡 秀紀

関西NGO協議会では、2014年から「かんさいCS ネットワークフォーラム」を9回開催してきました。「CS」は市民社会（Civil Society）のことで、フォーラムは、市民社会としての NGO・NPO が関西の企業と「お互いの資源、能力、アイデアを出し合い、対話を進めながら、地域の課題と地球規模の課題の解決に向けて連携・協働する」ための出会いの場づくりを目ざしてきました。各回のフォーラムでは、ゲストスピーカーによる講演と、企業と NGO・NPO がお互いの得意な部分を出し合って協力する連携・協働の事例紹介が行われました。

SDGs の目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」でも、「効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」と、企業セクターと他セクターとの連携・協働の重要性が語られています。

KANSAI-SDGs市民アジェンダづくりに向けて開催されてきた分科会の各テーマは、その多くが企業の活動とも深い関わりがあり、企業の活動が市民の生活や消費に大きな影響を及ぼしてい

る分野でもあります。お互いの長所を活かし、また不足を補い合いながら取り組む企業と NGO・NPO との連携・協働は今後も重要です。



KANSAI-SDGs市民アジェンダのこれまでとこれから

三輪 敦子

SDGs (持続可能な開発目標) は、2015年に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」という文書のなかで発表されました。2030年までに実現すべき 17 のゴール、169 のターゲット、232 の指標からできています。

SDGs は、2015年を達成期限として実施されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後を継ぐ目標です。MDGs は貧困の削減が最大の目標で、主に「途上国」を対象にした目標でしたが、SDGs は全世界を対象とする目標です。それもあって、省庁

や企業からの関心も高まっています。ビジネスチャンスと考える人も増えています。

ビジネスの機会と連動させ、「誰ひとり取り残さずに持続可能な2030年」を創造する企業活動を構想することには意味があると思いますが、企業の報告書を見ていると、これまでやってきた自社事業を SDGs のゴールのどれかに関連づけてアピールしている企業も多く、それでは SDGs の理念と合致しません。そのように用いるために SDGs は策定されたわけではありません。



KANSAI-SDGs市民アジェンダ (以下、K-SDGs) の策定は、こうした傾向を危惧し、関西そして日本が、公正で平等で平和な社会になるためにこそ SDGs はあると考える市民の視点で SDGs を理解し、実現のためには何が必要かを考えるために始まりました。

2018年 9月 11日の「人権・ジェンダー」分科会に始まり、2019年 10月末までに「災害」「多文化共生」「教育」「持続可能な働き方・ビジネス・人権」「環境」の6つの分科会を開催しました。

分科会ごとに「みんなの声」を記録する作業と並行して、「つながり (地域)」「まなび (教育)」「わたしらしくあなたらしく (人権)」「くらしとはたらき (暮らしと働き)」といった課題横断的なキーワードで「みんなの声」を検討する作業を始めているところです。



まだ暫定的ではありますが、この作業からは、異なる課題とキーワードに共通する視点が「人権」であることが浮かび上がってきています。「誰ひとり取り残さない」という SDGs の理念は、どこの誰にも保障されるべき人権概念そのものですが、市民の声を丁寧に集めた K-SDGs の取り組みによって、持続可能な社会の核心に人権があることが示されることは、私たちが手探りの状態から K-SDGs を始めたときの想定をはるかに超える、このうえなく嬉しい貴重な成果だと考えています。



関西の NGO・NPO はどのように SDGs を実践しているんだろう？

関西の NGO・NPO の活動がどのくらい SDGs を活用しているのを知るために、アンケート調査を行いました。

アンケートに答えた団体：84団体（150団体に依頼、回収率は56%）

アンケートの方法：機械法によるメールでの依頼、インターネットでの回答

どんな団体が回答したか：保健・医療または福祉分野で活動する団体が一番多く、その次に国際協力、子どもの健全育成の活動をする団体が多かったです。そのほかにも社会教育や環境保全の活動をする団体もありました。

回答団体は SDGs のことをどれくらい知っている？

- よく知っている 40%
- ある程度知っている 46%
- あまり知らない 10%
- 知らない 4%

回答団体は SDGs にどれくらい関心がある？

- 非常に関心がある 45%
- ある程度関心がある 54%
- あまり関心がない 1%

回答団体は SDGs のどんなところに関心がある？（複数回答可、最も多かった回答3つ）

- 様々な社会課題に「包括的に取り組む」というアプローチ 63%
- SDGs を通じた行政、企業、各種団体との新たなパートナーシップの創出 60%
- 目標の達成に際し「誰一人取り残さない」というコンセプト 59%

SDGs の 17 ゴールのうち、回答団体に取り組んでいるのはどのゴール？
（複数回答可、「大いに実施」と「ある程度実施」をあわせた割合が最も多かった回答3つ）

- ゴール3：すべての人に健康と福祉を 10%
- ゴール4：質の高い教育をみんなに 9%
- ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう 8%



アンケートからどんなことがわかったか

アンケートに回答した団体のほとんどが SDGs に関心を持っていました。そして、多くの団体はそれぞれの分野で SDGs を実践していることもわかりました。しかし、企業セクターやマルチセクターと協力して SDGs の実践に取り組んでいる団体が、自団体単独で取り組んでいる団体より少ないということもわかりました。SDGs の 17 番目のゴールは「パートナーシップで目標を達成しよう」です。NGO・NPO のつながりが広がることで、成果が得られることも期待できます。

みどり ちきゅう げん ひがしかわじむきょくちょう 緑の地球ネットワーク(GEN)の東川事務局長に

かつどう き 活動とSDGsのつながりについて聞きました！

GENとは？

ちゅうごく さばくか ちいき しょうりん りょくかきょうりょく
中国の砂漠化した地域に植林などを行うことで緑化協力を
おこな だんたい ねん せつりつ
行っている団体です。1992年に設立されました。



GENの活動のどんなところがSDGsとつながりますか？

木を植えること、そのものがSDGsにつながっています。木を
植えると気候変動への対策や陸の豊かさ・生物多様性を守ること
へとつながります。GENの活動場所は2000年前には森林があっ
た場所です。人間の生活や戦争によって森林が破壊され、砂漠と
なった地域で植林し環境を回復する活動をしています。木がな
くなった土地では、雨が降ると土や水が流れていってしまいます。
そうすると、土地がやせ、農作物が育ちにくくなり農家の生活を
圧迫します。山に木を植え、段々畑を森林に戻すと、雨で水や
土が流れなくなり、結果として村の土地の回復、作物の収穫率
の向上にもつながります。

また、果樹園を作りその管理と運営を村人に行ってもらって
います。果樹園による収入は村の経済状況の向上にもつながり
ました。始めたころは、貧しさのために小学校にも通えない子
がいたので、果樹園の収入の一部を村の教育に使ってもらいま
した。今は政府による教育政策が進み教育状況が大きく改善
され、その面での意義は薄れましたが、村独自に果樹園を拡大し
て成功を収めたところもあります。

これからの活動について教えてください

これまでは砂漠化地域で木を植えていましたが、新しく協力を
始めた河北省蔚県では、壺流河という川の両岸に湿地があり、
大規模な湿地公園が作られています。その一画に樹木見本園を作
るとともに、野鳥の保護にも取り組み始めました。湿地を保全し
て多くの渡り鳥を呼び込めば、生態系もより豊かになります。
市民の生活に身近な公園の環境を整えることで、SDGs ゴール
11「住み続けられる街づくりを」にもつながります。

SDGs、私たちが今日からできることはなんですか？

SDGsと聞くと国連や政府が行う遠く離れたことのように感じ
てしまうかもしれませんが、私たちの日常生活と重なり合っ
ています。中国での植林の活動に参加して、水や森林の大切さを
実感し、日々の生活を見直そうという人もいました。生活の中で
SDGsを考え、アクションをおこしてみてください。GENも
中国の植林だけでなく日本国内の自然環境を見直すこともして
います。自分たちの足元から、何が起きているのか知ろうとし
てみるのが大切です。



KANSAI-SDGsのあゆみ



KANSAI-SDGs市民アジェンダの活動をつくっているひとたち

協力

KANSAI-SDGs市民アジェンダの活動に参加して下さった約400人(延べ)の市民のみなさん、
 伊与田 昌慶さん (特活)気候ネットワーク、岡島 克樹さん 大阪大谷大学、加戸 菜々恵さん
 Japan Youth Platform for Sustainability、小泉 雅弘さん (特活)さっぽろ自由学校「遊」、
 佐久間 量子さん (特活)関西NGO協議会、佐野 光平さん (特活)関西NGO協議会、
 枚本 育生さん (特活)環境市民、鈴木 千花さん ワンフェスユース2019高校生実行委員、
 武田 かおりさん (特活)AM ネット、谷川 詩織さん (特活)関西NGO協議会、
 戸簾 隼人さん 立命館大学Sustainable Week実行委員会、橋口 詩七さん 大学生インターン、
 松岡 秀紀さん (一財)アジア・太平洋人権情報センター、松平 尚也さん (特活)AM ネット、
 羅 方舟さん 大学院生インターン

※50音順

事務局

岩崎 裕保 (特活)開発教育協会、熱田 典子 (公社)アジア協会アジア友の会
 高橋 美和子 (特活)関西NGO協議会、岩根 あずさ (特活)関西NGO協議会

座長・副座長

三輪 敦子 (一財)アジア・太平洋人権情報センター、吉椿 雅道 (特活)CODE海外災害援助市民センター
 新田 和宏 近畿大学、田尻 忠邦 (公財)大阪YMCA
 東川 貴子 (特活)緑の地球ネットワーク、栗田 佳典 (特活)テラ・ルネッサンス



もくじ

- P01 えすでいーじーず SDGs ってなんだろう
- P02 しみん SDGs と KANSAI-SDGs市民アジェンダとは
- P04 しみん 市民が動く：より良い社会を築く足場としての SDGs
- P06 あゆ 歩みをすすめるまえに
- P08 ほ 1歩め：みんなが「わたし」の声を届けよう～聞こえない声を「聞こえる化」する(第1回 分科会 人権・ジェンダー)
- P10 だい かい ぶんかかい じんけん 第1回分科会 人権・ジェンダー みんなの声
- P14 ほ 2歩め：何が大切か考えよう！～災害が来る前に～(第2回 分科会 災害)
- P16 だい かい ぶんかかい さいがい 第2回分科会 災害 みんなの声
- P18 ほ 3歩め：みんなですべて生きていく社会ってどうゆうこと？～入管法改正から考えるこれからの社会(第3回 分科会 多文化共生)
- P20 だい かい ぶんかかい たぶんかきょうせい 第3回分科会 多文化共生 みんなの声
- P24 ほ 4歩め：持続可能な未来のための教育について考えよう(第4回 分科会 教育)
- P26 だい かい ぶんかかい きょういく 第4回分科会 教育 みんなの声
- P28 ほ 5歩め：働くことと生きること～安心して働くことができる社会をつくろう～(第5回 分科会 持続可能な働き方・ビジネス・人権)
- P30 だい かい ぶんかかい じぞくかのう ばたら かつ じんけん 第5回分科会 持続可能な働き方・ビジネス・人権 みんなの声
- P32 ほ 6歩め：地域から、市民から、持続可能な地球づくり・世界づくりをはじめよう(第6回 分科会 環境)
- P34 だい かい ぶんかかい かんきょう 第6回分科会 環境 みんなの声
- P36 うみ 海をこえて一歩：C20 サミット分科会「アジアの市民社会」での報告
- P37 ちいさ いろいろな地域と一歩：G20大阪市民サミット「地域社会・SDGs」分科会を通して
- P38 こうこうせい かんが 高校生が考える持続可能な世界：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth
- P39 しみん KANSAI-SDGs市民アジェンダをユースと一緒に作ろう
- P40 と これから SDGs に取り組みたい団体と一歩
- P41 きぎょう 企業と市民社会が一緒に一歩
- P42 しみん KANSAI-SDGs市民アジェンダのこれまでとこれから
- P44 かんさい 関西の NGO・NPO はどのように SDGs を実践しているんだろう？
- P46 みどり 緑の地球ネットワーク(GEN)の東川事務局長に活動と SDGs のつながりについて聞きました！
- P48 しみん KANSAI-SDG市民アジェンダのあゆみ
- P50 しみん KANSAI-SDGs市民アジェンダの活動をつくっているひとたち

KANSAI-SDGs のあるき方— 市民が SDGs をデザインする—

ねん がつ ほんごう
2020年3月 発行

へんしゅう ほんごう とくていひえいりかつどうほうじん かんさい きょうぎかい
編集・発行 特定非営利活動法人 関西NGO協議会

〒530-0013 おおさかしきたく ちゃやまち かい
大阪市北区茶屋町 2-30 4階

でんわ ふあつくす
電話 06-6377-5144 FAX 06-6377-5148

メール knc@kansaingo.net

ゆーあーるえる かんさい きょうぎかい
URL [関西NGO協議会] <http://kansaingo.net/>

[SDGs in Kansai] <http://kansaingo.net/kansai-sdgs/>

そうてい まえだしんや
装丁・デザイン パーキーパット・デザインズ 前田慎也

いんさつ ゆうげんがいしゃ ただすしよぼう
印刷 有限会社 糺書房

ほんざっし しよう しゃしん ぜんぶ いちぶ わだん ふくせい ふくしゃ きんし
本冊子に使用されているイラストや写真の全部または一部を無断で複製・複写することは禁止します。

ほんざっし どりつぎょうせいほうじん かんきょうさいせいほぜんきこう ねんど ちきゅうかんきょうきん じよせい う さくせい
本冊子は独立行政法人 環境再生保全機構「2019年度 地球環境基金」の助成を受けて作成しました。



この冊子は、自然エネルギー(バイオマス発電6.3kWh)を使用して印刷しました。